

青白磁碗

陶製
口径12.5cm 高4.3cm
平安時代(12世紀)
岩手・平泉町所蔵



初代清衡、二代基衡、三代秀衡、四代泰衡と連なる奥州藤原氏の本拠地として繁栄した平泉は、衣川や北上川、太田川に囲

まれた1キロ四方の場所に計画的に道路が配され、信仰の山であった金鶏山を中心として藤原氏の居館(柳之御所・加羅御所)や浄土庭園を備えた中尊寺・毛越寺・観自在王院・無量光院が次々に造営されていった。藤原氏を支えたのは豊富に産出する砂金であったことは有名で、藤原氏はその経済力をもとに中国の文物を積極的に平泉に導入したようだ。日宋貿易によってもたらされた中国陶磁は博多や京都でも多く出土し、当時の貴顕に愛されたことが偲ばれるが、都から遠く離れた平泉でも数多く出土し、当時の平泉が博多や京都に匹敵する文化を有していたことを示している。

本品は、柳之御所遺跡で出土した青白磁の碗で、中国の景德鎮窯の製品。口縁に沿って切り込みを入れた「輪花」が施されている。幅10mもの大きな堀が囲む中枢域と堀の外部の屋敷地からなる柳之御所は藤原氏が政治・行政をつかさどっていた居館「平泉館」と想定されている。本品は堀外の井戸の底から出土した。白磁や青磁に比べて比較的稀少な青白磁の碗が完形で出土したことから使わなくなった井戸を埋める際の井戸鎮めの儀式に用いられたとも言われている。この井戸が有力者の屋敷地のものであったことがうかがえる。

平泉は奈良から670キロメートル離れた場所ながら、『造興福寺記』によれば初代清衡の父経清は藤原氏の一門として興福寺の修理に関わるなど奈良との関係も浮かぶ。中国と奈良、平泉の当時の距離感は私たちが思う以上に近かったのかもしれない。

岩戸 晶子(当館学芸部研究員)

◆特集展示 「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」(2/8～3/16)にて展示

展示品の みどころ

菩薩坐像

木造 彩色・截金
像高69.1cm
平安～鎌倉時代(12世紀)
文化庁

12世紀後半の奈良仏師の手になるとみられる菩薩像。三尊像の右脇侍だったと考えられ、対をなしていた可能性のある菩薩像がアメリカ・クリーブランド美術館に存する。

精悍さのうちに穏和な風をとどめた容貌と、手足の繊細な感覚とが生み出す優美な姿は、着衣を飾るおおらかな趣致の截金文様も相まって、平安後期特有の典雅な気分をたたえる。一方で、左胸上で結び目をつくる条帛の掛け方や、背面で条帛と天衣が交叉する形式は古様であり、片足を踏下げる坐法もふくめ、古代彫刻の再現が明確に意図されている。腹部を大胆に絞り、胸のゆたかなふくらみを強調した健康美あふれる上体もまた、奈良時代の仏像を意識したものだろう。蓮華と蔓状の紐からなる胸飾や臂釦の意匠も目を引くが、これほど個性的で具象性に富んだ装身具は、他に例をみない。

治承4年(1180)の焼討ち以前の南都には、由緒と霊験を兼ねそなえた天平彫塑が今にもまして数多く存在したに違いない。いまだ定朝様が支配的だった平安後期にあつて、そうした古仏を範とし本像に生氣を吹き込んだと仏師の意欲が伝わってくるようだ。作風にみるとおり奈良地方にゆかりの像とすれば、やがて運慶・快慶らにより完成される鎌倉新様式が、12世紀後半の南都でたしかに胎動していたことをしめす一遺品といえるだろう。

山口 隆介(当館学芸部研究員)



開館日時(1月～3月)

■開館時間

午前9時30分～午後5時

〔開館時間延長日〕

- ・午後8時30分まで—2月8日(土)～14日(金)
- ・午後7時まで—1月25日(土)、2月3日(月)
3月12日(水)
- ・午後6時まで—3月1日(土)～11日(火)
3月13日(木)・14日(金)

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は、その翌火曜日が休館)、1月1日
※1月13日、2月3日・10日、3月3日・10日は月曜日ですが開館します

観覧料金

名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※団体は20名以上です。

※満70才以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※2月3日(月)は無料観覧日で、すべての方が無料でご覧になれます



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

